

心性の巻

心性の巻

前篇

人の性格……………一
 氣質の四分類……………九
 人格の二面……………一四
 後篇……………一九
 聖像模造の趣意書……………一九
 光明孝養会の趣意書……………二五
 御思ひ出の記……………二九

人の性格

蓮師曰く、しばしば他面を見るに或時は喜び、或時は嘆り、或時は平かに、或時は貪現はれ、或時は痴現はれ、或時は諂曲なり。瞋は地獄、貪は餓鬼、痴なるは畜生、諂曲なるは修羅、喜ぶは天、平なるは人なり。他面の色法に於ては、六道共にあり。世間の無常は眼前にあり、豈人界に二乗界ならんや、無願の惡人も猶妻子を慈愛す、菩薩の一分なり。人界所具の佛界は水中の火、火中の水最も甚だ信じ難し。然りと雖も龍火は水より出で、龍水は火より出づ。心得られざるも現證あらば之れを用ひよ。既に人界の人界之れを信す。佛界何ぞ之れを用ひざらん。堯舜等の聖人の如きは萬民に於て偏頗なし。人界の佛界の一分なり。不輕菩薩は所見の人に於て佛身を見る。悉達太子は人界より佛身を成す。これ等の現證を以て信すべき也。

性——人の性格——其人の善惡の意向、最も強き心底に銘したる習性、其嗜好、思想、情操、人格組織の二要件は齊一と確定。齊一は行動の際に要す。確定は時間に繼續す。本能要求志望等は性欲より發射する特性を認むべし。

其性格を認む。其個人の天性自然の傾向、感情、活動、習慣、志望、判斷、思念等の特殊なる表式に於て特性を認むべし。ヅラホーチエール曰く「顔面の成分は人皆同じ其比例組織の異なるが故に各個に相貌各異なる。」人は心性の上最も同一の人性を有すれども、其程度其比例に於て各異なる故に、性の相異なること猶面目の如し、其相貌と性格とは天下の人々に徴するに千態萬狀、悉く相異れり。

人格を確定する元因とまた各々相異なる因縁とを知らん爲めに人格を組織する素質を分析して研究するの必要起る。

性格を組織する素質は稟性と習性、知情意との三能を合成して認むべし。佛國のフレデリック、ケーラが古今人物に就て人格の模型を造り其實例を示せり。

一、情感的人格特性。是は感性の變則的發展せる性格、感情過當、知識偏狹、精力皆無の人、一見分ち易し。小心臆病、恐怖の念強く些少の事にも非常に恐怖す。

其實例ミシユレー氏の描寫したる具細工人。彼れは感じ易く病的の人にして小さき家内の出來事に殆んど精神錯亂せり。其弟の變死をいたみ、海上を眺め不祥不吉の觀念を起し、如何にも波濤が惡意を以て己を取殺しに來る様に感じ、冬は朔風飛雪の窓を打つを恐れ、終夜眠る能はず。諺に蒼空の落來りて己を壓殺せぬ哉を實に恐るゝ類の性格。

二、活動的人格。勇壯、快活、常に事業に従事して活動せざれば片時も安んずる能はず。東奔西走、眠食を忘れて立ち働き須臾も休止するの餘地なく、性動き騒ぎ、スネ、アパレ、膨脹し、野心を以て企業を起し、善く儲け善く散じ、活動の外目的あるにあらず。活動的人格は概して樂天家なり。

其實例羅馬豪傑シーザルは此型の人なり。造次頭沛にも休止する能はず、いかなる

機會をも利用し直に進歩發展を計り、活動熱に其全力を支配さるゝなり。

四

三、冥想的人格——又知識的人格。此性は活動的特性を内心に起すもの。此特性は先天稟性なると習性によらず、冥想を以て知識を發せしめ、此種の人幼にして嬉戲を好まず、真面目の思想を凝らして、宛ら大人の風あり。知識的人物は冥想に耽り、高遠の理を考へ、また空想にかゝることあり。思索に耽りて萬事を打忘るゝなり。

其實例アルキメデス、ケブレ、ニウトン、ライブニッツ、スピノザ、ミラヒトン、マピラン、アムベール、カントは其代表者なり、彼れ六十歳の久しき、世に交らず出て人と語らず、常に冥想に耽り。

四、活動情感的特性——又感激人格なり。此は強き感性和熱烈なる想像との強度なるもの。

快心大膽、無謀、憤發、時には剛情狂信は此種の特性なり。此種の人國家のため宗教のため、活動しつゝ誠忠を盡し、身を犠牲に供するを辭せず。殉教者殉國者に多し。

フランシスコ、ダツシーズ、十字軍を鼓吹したるビエール、ルーテル、勇敢なる武人アルシバド、アレキサンダア、ナポレオン等猛烈なる革命家ミラボー、ダンントンの如き、バイロンの如き詩人、ブルドンの如き文士、皆感激的特性の人、ペンウエストセルリニは此人格の代表者なり。勇壯剛健、自發心と活動心を以て全身を掌る。決意の確固たること到底翻す能はず。彼れ二十回敵の刃を免れたり、彼幽閉せられ繩を以て高所より下り一脚を折りたれども、跛行して城門に達す。堅く閉鎖さるゝを見て劍を以て地を掘り、工夫に誘はれて友の家にゆく。再び捕へられて又牢獄に鎖がる。苦楚悉く嘗めたれども毫も挫屈の色なく、眞に鐵石の如き性格たり。

五、活動冥想的人格——又至誠的人格。思想常に主權を握り、熟考せずば事を企てず、潜心熟考の上に初めて着手し、一たび意を決する時は剛毅にして、善く計畫し、深く考慮し、情を抑へ欲を制し、遠見卓識堅忍持久、意志強固なるは此種の特性。ルイ十

五

四世、フランクリン、ウエリントン、コロンブス等。辯家のホツマス、軍人のチユレンス、哲人のエピックタトス、コペルニク等。フレデリク二世はその代表なり。

六

六、冥想情感的、熱情的人格。感性的優美其知識巧妙。活動に至りては、其本原を精力の根底に取らず、情感の強勢に取るが故に、其精力は一時的なり。美術家ならばインスピレレヨンの起りたる時、雄辯家ならば大問題を辯護する時。威儀品位謙欲等は此種の特性。思を神秘の境に馳せ、冥想感激する人。

アリストートル、セキスピヤ、文士バスカル、ヂテロ、シルレル、ヂツケンヌ等。詩人ルクレス、チブール、ペトラルク、サムエルジョンソン等。哲人エビキニール、ホルレーノト、コント。

七、普遍的な人格。感知活三者平均。感性著しく發達、知に學に篤く、道義學術何れに優れるかを知る能はず、哲人たり文士たり美術家たり道學者たり詩人たり、意志も強硬たらざるも堅忍持久、過不及の失なし。

グーテは此の種の代表者なり。氏は史家宰相劇主評家、夢想喧囂最靜平穩一事に熱情せず、觀察的態度。言動極めて平調、知性巧妙。其性行規矩あり。

次に改造を要すべき不完全の性格。

一、無定形的。自家の特長、一定の形定めなき輿論に従ひ境遇に應じ世の爲すが如く爲しつゝあるもの、人格なきに近し。

二、無感覺。誘惑も打撃も勸誘も痛痒を感せず行動もなき彼は故らに友を求めず、交を好まず。性穩和何人にも逆はず、人に愛せらる。いかなる人に遇ふも聞くも平然として逆はず。また感せず喜怒哀の情遠く放逐したる人。

三、不定立的人格。我儘勝手氣體氣まゝ、變幻定りなく喜怒哀常なく、到底常則を以て律すべからず。其行動も極端より極端に、同じ境遇に異りたる行動をなす。飽き易く倦み易き特性。

四、不決定。二個若くは已上正反對せる傾向殆ど均等の勢力を占めて一盛一衰し自

七

ら決するなく、實行は徒らに遲疑逡巡し、何とも決する能はず、意志は空に懸れる如く、其弊極端に至る時全く志望を缺き、無能力無氣力に墮ちるを常とす。

五、反撥的。異論反抗を好む性、何事にも人と衝突し、人と意見を異にするを以て特長とす。敢て一定の見なく、只他人に反抗する。たとひ自己固有の思想感情たりとも若し他人之言ひ顯す時は直ちに反抗す。他人の奨勵誘導直ちに放棄してまた願ひます。

六、ヒポコンデル的。極めて感じ易く、故なきに悲み人の相語るを聞くや直に己に就いて語ると思ひ、人の言は一句半句も悪き意味に解し、人の談笑を聞かば我を嘲笑せりと思ひ、人の指示に我を爪弾せりとし、人のすること皆我を輕侮凌辱すと思料推量して獨り樂み怒り恐れ恨む等の特性。

七、憂鬱的。天資柔弱、力なく、世の失敗に挫け不幸艱難に屈し再び起つことなき此種の人、獨力の功なきを見其の計畫の畫餅に歸し企業の水泡に歸したるを見るや悲嘆に沈み苦境に嘆き只死を待つのみ。

八、ヒステリ的。時々刻々に喜びより悲みに、悲みより笑に、一も常あるなく其動作不規律、或時は多言饒舌忍びざる程にして或時は沈黙啞者の如く、心沈み氣鬱し、空想を盡き心配を造り、理知と判断を以て自ら支配すること能はず。

氣質の四分類——佛キペール

人格を成す因縁各異れど、因には其天性持ち來りし資性。同しからず。二に後天教育及び四圍の事情に淘汰せられたる。三其意志の強弱に至つては到底同一ならず。之を四大別して四種に分つ。

第一の氣質に四種。一、多血質、其の生理的狀態、顔色薄赤く、眼青く、髮茶褐色、血は淋巴質の上に勝を制し、心臟鼓動急速に、脈管内に彷彿し體中到處の愉快の氣を帯び年に増して肥滿す。多血質は費す所少く貯蓄に富み、故に赤色血皮膚に透明す。

其舉動神速輕快、感情鋭敏激烈持續する能はず印象深からず。忽ち笑ひ忽ち泣き喜怒情亂れ易し。多感、少の事も氣にかゝる。苦感消え易く隨つて人を恕することも速なり。其意始終激變、愛は濃厚持久なく、今日忠誠を此人に於て、明日は他人に誓ふ。其知識活潑神速洞見記憶強く想像熱烈動勉を缺き業を怠り學を疎んじ堅忍の性なく炎の如く輕く光輝をあげ毫も堅實さなく。品性は愛すべし。生計豊なれば歡喜顔に顯れ美聲四隣に高く輕佻浮薄の嫌なきにあらず。此の性の缺點は意志なり。感情を制し得ば大業も企つことを得べし。利己心なく往々歎身的美舉に義に感ずる時は身を命を顧みず。真に大業を擧げしめんには二者の助縁を要す。規律的生活と忠實なる朋友、前者は意志の動搖を確定せしめ後者は方針認易きを一定せしむ。

二、神經質。狀貌沈鬱、筋肉發達充分ならず、神經過敏、故に正しく活動する能はず感情に奔るを常とす。血液循環せざるもの、如く、血色甚だ悪く、顔色蒼然眼のみ光り、睡眠不足、不規律の故に疲勞を回復せず。筋骨逞しからず。力仕事をなす能はず。其の舉動は一時衝發するも疲勞し、優美にして往々紳士の風あり。其感情は過敏ならざるも深(一)神經沈痛苦き顔を示す。知識は他の能力に比して變し易かれども鋭利、深き考を起しまた奇なる思想を生じ、創作的のもの多し。知識の働忽ち疲勞し易く屢中止す。繼續するや始終一貫に進む。美質また美を好む美術思想に富む。意志虛弱と云ふよりは心配に沈む時は意氣沮喪し、爲す能はざるもの、如し。

修養法。神經家は意志や道德上に於ても中絶し或は道を逸す。此事實自己の身體組織より出ることを覺らば半は快癒すべし。神經家は兎角に病を重らしむる者を起し易し。如何せん彼が爲には無用の(察)は棄て守らず不念の策は措いて顧みずと云ふ主義を取るを可なりとす。「憂鬱の場合には愉快なる友に接し、苦悶を慰むべし。兎に角光明の日の來らんを待つべし。

短氣質。其特質とすべきは衝動的活動的消費的たるにあり。始終何らかを行はんと欲し何らかを放棄せんと欲す。電氣の充實せる時の如く觸るれば將に破裂せんとす。

短氣質。其特質とすべきは衝動的活動的消費的たるにあり。始終何らかを行はんと欲し何らかを放棄せんと欲す。電氣の充實せる時の如く觸るれば將に破裂せんとす。

短氣質。其特質とすべきは衝動的活動的消費的たるにあり。始終何らかを行はんと欲し何らかを放棄せんと欲す。電氣の充實せる時の如く觸るれば將に破裂せんとす。

短氣質。其特質とすべきは衝動的活動的消費的たるにあり。始終何らかを行はんと欲し何らかを放棄せんと欲す。電氣の充實せる時の如く觸るれば將に破裂せんとす。

短氣質。其特質とすべきは衝動的活動的消費的たるにあり。始終何らかを行はんと欲し何らかを放棄せんと欲す。電氣の充實せる時の如く觸るれば將に破裂せんとす。

短氣質。其特質とすべきは衝動的活動的消費的たるにあり。始終何らかを行はんと欲し何らかを放棄せんと欲す。電氣の充實せる時の如く觸るれば將に破裂せんとす。

短氣質。其特質とすべきは衝動的活動的消費的たるにあり。始終何らかを行はんと欲し何らかを放棄せんと欲す。電氣の充實せる時の如く觸るれば將に破裂せんとす。

短氣質。其特質とすべきは衝動的活動的消費的たるにあり。始終何らかを行はんと欲し何らかを放棄せんと欲す。電氣の充實せる時の如く觸るれば將に破裂せんとす。

生理状態は血豊かに大管を流通し、顔色嚴酷、眼も髪も黒く精力費すること大なるが爲めに身體割合に瘦せ居たり。時に肥滿せるは筋肉の發達せるなり。感情は優雅ならず鈍き方。印象は快活ならず深甚ならず多感にあらす憂性にあらす心中苦感比較的に少し。彼の辛抱強きは同情の心乏しき故人の苦を解する能はず己の苦にもさほどまで感せず。知識は鈍く重くして知識の事業に適せず時には精神の所在に疑はるなり。創作的知識なく蓄積的博覽強記學殖の豊富なるに驚くべきなり。理論よりは實行に傾く。心情は恩愛と優美の情甚だ薄く喜怒哀樂の情勇猛激烈自ら制すること難し。自ら警戒せざれば一旦慨然として成さんとする之を沮害し蹂躪して顧みざる癖あり、無情冷酷に近き如き觀あり。何かを爲さんと欲し無爲安閑は其性の忍びざる處。何か爲さざれば一日も休止する能はず、一度目的を定めば、之を貫徹せんとするや着着進むよりは寧ろ横行闊歩し直ちに目的を達せんとす。時日の遲滯は忍びざる處、明日まで延すものに非ず。障害物に接觸せば排除せすんば止まず。彼は恐怖を知らず、之に反抗するものあらば憤然として怒り其勢甚だ猖獗當るべからず。若し敗止すれば永く怨恨を含み復仇の日を望む。

修養法は性質の人情慾を抑制して精力を利導するあらば天下何事か行はれざらん。冒險的の事業も最難の計畫も皆成功に向ふべし。情を制し得ば頑強剛健勇往直行進んで退くことなく目的を達せざる間は永劫氣力を落さず。情を制せざれば高熱の汽罐中の如く危険甚し。本能に任せ過激の言動命令の權能を振り大膽不敵、無謀短慮の舉いかんともする能はず。二策を以て、一、自ら心を制し謙抑し人を傷けざらんことを期し、己が權利と威力とを出來うる丈に隱晦にせんことをとむべし。

冷靜質の特徴。
生理的狀態は一見無頓着の風あり顔青く鼻高く體重く筋肉發達鈍く行止の緩慢、毛髮薄く眼灰色。感情は鋭利ならず深甚ならず侮辱にも感せず、苦も感せず快をもまた感せず。知識は想像に富ます言辭明瞭的確嚴正、文に乏しく熱に乏し。學問も苦心の

結果、創作的才なく、其心は善良、一見冷き如し。猷身の誠意を藏し自發的にあらす心情は皆内に隠れて見えず、己の美に己れ樂みつゝあるも人を樂しましめず。舉動は活動穩靜意志の司配權極めて強く、用意周到深謀熟慮の上行動す。輕忽にして急躁なく徐々と進行し遂に目的に達す。機を見て事を擧ぐる奇知なし。
修養は短氣に抑制を勸め冷靜に進むことを告ぐ。轡を要すると轡を要すると。情の激怒を節するにありとせば冷的の人は徳を行ひ易し。義務の遂行は甚だ難し。短氣質には節せよ制せよ。冷的の人には進めよ勵めよ。
四種の中多血の人には快活を取り、神經的の優雅、短氣の活動、冷靜の用意周到は其長所。此の長所を取りて己が短所を補ふべし。

人格の二面

天然の領分と人爲の領分。天然は先天的人爲は後天。

人格品性に飾るもの四、一、潔直なる良心。二、健強なる意志。三、優美たる雅量。四、嚴然たる威儀。良心は光輝、次は威力。雅量は品性の花。威儀は品性の位を貴す。光の人格。潔直なる良心は人生榮譽の第一信用の目標なり。他にいかなる美質を備ふとも潔直なる良心を缺く時は品性下劣なり。良心は一、誠實なる忠言者、謂く豫め危機を示し義務を追想せしめ善行壯舉に注目す。二、有力なる馬勒。意馬心猿を制し情風慾濤を淨くし不祥不吉なる禍害を豫防す。三、有驗なる(針)。惰眠を醒し活動せしめ昏睡を破り驟起せしめ迷夢を醒す。

斯の光なきもの三惡道。良心の光なきものは義務を感せず愛の温みなく現在に於て刑罰を恐れ未來地獄を恐れ常に人の目前を恐る。毀譽褒貶を恐る。人の見ざる所名譽なき所には何等の善をも爲さず名譽と怖畏とに動されて止むを得ずこゝにいづる。賤しい哉。

斯の光あるものは自己心中の光明に照されて義務を行ふ。是自己に與ふるの義務

の光を以て自分義務を行ふ他は動されしに非ず。

針鼠の如く荆棘の如く觸るゝ人を傷る者、人近ければ之を毀傷す。意地悪き批評家、感情投合せぬ人罵詈雑言を事とする人謬言を好む者皮肉を言ふもの怨恨を含む中傷者嫉妬者憤慨者他人の一言一行必ず之を非議し之を筆誅す。

三惡。一肉欲、人を奴隷とす。肉食色の爲に其品位を墮し健康を害ひ榮譽を失ひ、つひに性格を墮落せしむるもの甚だ多し。肉慾は人性をして餓鬼化する。肉欲の奴隷となり精神鈍鈍と心性陋劣其精力を失ひ其理を見るなく人道を行ふ勇氣なし。人肉の捕虜とならざらんために努力すべし。色食等の欲を制し聲色の慾を抑ふべし。若し之に服従せんかつひに自ら安んじて其奴となるべし。

二、空想病。斯の病は鬼。健全なる意志の健康を傷ひて空想病的に墮するものまた一種の鬼たらざるべからず。此病また健全なる人格を好奇心に欺かれ寄席芝居に趣き或は醜態淫靡に従ひ或は不道德の談話に快を求め心を慰めんとする如きは空想病にかゝれる兆候。空想また空想疑心暗鬼を生じ或は杞憂神經を痛め病的思想を浮べ狂的情念を温め空妄幻影を畫き自ら心性を疲勞せしむ。

三、氣力の衰亡の意氣が失望的情眠の下に麻痺し尋常の手段にては治すべからず。力の入格。人の義勇正義は安心の基として心意に勇氣の原動力となる。義務また企てたる事業に飽まで堅忍不拔ならしむ。義務を遂行せんにはいかなる危険にも艱難の爲にも決然勇進猛進せり。正義の命に正直に歩むもの正々堂々、公明正大。

意思健全なる人とは自治の人を云ふ、己を制し己を支配し情慾の奴隷とならず。フランソア、ド、サル曰く「己が心を把持して奪れざらば人生の至幸なり」と。獨逸の哲人が「我の我たるは天の人に與ふる至上榮福なり」と。自治の人に二個の條件を要す。超然と統治と。超然とは聖者の煩惱の束縛を離脱し活動自在。統治とは自己意志の力を以て治めるもの。超脱に三種。一外界事變、二人間の影響、三内心情欲。

意志健康の人は外世界物質事變の爲に毫も動されず、始終外界と戦ひまたは物質事變

を避ん爲に巧妙なる手段を求む。疾病に對して用心以て之を防ぎ確信以て之を癒し、失敗にも虚心坦懐以て之を忍び、精勵刻苦以て之を挽回し、いかなる禍害にも落膽せず、たとひ身に切斷すとも心意は動すべからず。始終道義的勝利者なり。

聖像摸造の趣意書

(註。聖像に添印刷物)

經曰如來以無盡大悲、矜愛三界、出興於世、教化度脫無量衆生と。良に惟れば、吾曹衆生無始より已來生死に没在し輪轉休むことなし。此に於て吾大聖世尊無盡の大悲を以て世に出興ましゝて、慈悲方便して解脱得道せしむ。其廣大恩言思の及ぶ所に非るなり。弟子辨榮生を遺法の末にうけ、身を佛門に寄せ、白毫光裡に生息す。況や法喜禪悅の味を擅にし、無上甘露の妙樂を受くるに於をや。夙に大聖世尊の神風を欽景し、聖徳を仰慕して戀念歎むことなし。願くは生前一たび印土に渡航し、聖跡に往詣して難謝の恩を謝せんと、實衷を吐露して十方の法俗に訴れば、衆の大に好意を得、加祐を被ること甚だ厚し。遂に昨年十二月を以て彼の印土に航し、即ち一月下旬聖迹道場地に詣る時に、精舎の佛像前に跪き、敬禮合掌して妙色身を瞻仰すれば、聖客儼然として在すが如し。無盡の聖徳尊容に相れ、無極の大慈佛眼に充り、歡悲歎胸に隘

れ感涙止め難し、亦聖菩提樹金剛座の前に拜禮恭敬して世尊の往昔を憶想すれば吾慈父此道場に坐し玉ひ、一夜神風を起して摩羅の障雲を拂ひ、香風清涼の曉正覺の妙花開く。佛日世間に出で無明の闇を照破す果分甚深なる因分淺からざることを念す。往昔菩薩初發心爲衆生故捨身命長時長劫修苦行恩德高昊天無極。亦念願すらく弟子宿望既に遂れども追慕遂に止め難し。何を將つてか遺影に擬し恭供して恩德を報せん。聖菩提樹は佛此下に證果す。世尊既に其恩を憶玉ふと。依て道樹根際の土を以て聖像を模塑し、同胞と共に供養を修んと。即ち稽首して白して言さく、我障重未遇佛世、妄起邪見違正法、自造惡業沈苦海、皆依缺解脫勝緣、身生邊土法末時、得聞正法大聖恩、仰慕聖風年已久、今拜聖迹歡喜甚、垂聽道樹根際土、造作如來萬德像、見聞隨喜諸衆生、願同發心成佛道、此願をのべ已りて、稽首作禮而去。本國に歸るに及んで、佛工陶工に托し、聖地の土砂を和して、聖像を造作せんこと若干千たらん。以て吾有縁の同志に附す。弟子辨榮仰いで十方の時衆に啓す。弟子今聖像を模造して諸の仁者に附すること、佛無極の恩に報せん爲め、且は無上の勝緣を結んがため、仁者は已に正見を起し正法に歸す、道業を修め道果を期す。願くは今日より盡未來際慈眼を以て相向ひ、佛眼を以て相視て、菩提まで眷屬し、共に眞善知識と作つて、道業を勸奨し乃至成佛せん。是弟子が至心誠意諸の仁者に望む。幸くは信明し玉へ。

明治廿八年四月

辨榮和南

此聖像は佛陀伽耶精舎の菩提樹に向ふ龕なる圖を模寫したるなり。該精舎は菩提樹の東に高百六七十尺、下基面二十餘歩。壘青甃を以て塗に石灰を以てす。層龕皆像あり。四壁奇製を鏤め作す、或は連珠形大仙像上に阿摩果あり、東面接して重閣をなす精舎の故地阿育王先に小精舎を建て、後に波羅門あり、更に廣く建築せり、其緣由西域記にあり、曰く初め波羅門法を信せず大自在天に事ふ、傳へきく、雪山の中に天神在すと、遂に其弟と共に往て求願す。天の曰く凡て諸の求願の福方果あらんとする汝が祈る所我が能く遂しむるあたはず、波羅門曰く然らば何の福を修めてか以て所願を

遂ぐきや。天の曰く善種を植て勝福田を求めんと欲せば、菩提樹は聖果を證し玉ふ處なり。宜く時に速に及て菩提樹に往て大精舎を建て、大水池をほり、諸の供養を興せば所願當に遂ぐべしと、波羅門天の命を受け大信心を發し、相率て返る、兄精舎を建て弟水池をほり、是に於て廣く供養を修め、心願を勤求すれば、後皆果す、遂に王大臣と爲る、凡て祿賞を得れば皆入て施捨して精舎已に成す。工人を招募して如來初成佛の像を圖しめんと欲すれども曠しく歲月を以人の召に應ずるものなし、久して波羅門あり來て衆に告て曰く、我よく如來の妙相を圖寫せんと、衆曰く今將に夫れ何をか須ゆる所ぞ、曰く香泥のみ、宜く精舎の中に置き並に一の燈を以て我を照しめよ。入り已りて堅く其戸を閉ち六月の後戸を開くべしと、時に諸僧衆皆其命の如くして尙四日を餘して六月滿ざるに、衆咸く駭きあやしみ、開きみるに精舎の内に佛像儼然として跏趺坐す。右足上に居左手斂して、右手垂て東面に坐せり、肅として在すが如し。座高四尺二寸廣さ丈二尺五寸、像高丈一尺五寸、兩膝相去こと八尺八寸、兩肩六尺二寸相好具足して容顏眞の如し、唯右乳上圖營未だ周らず。然れども人を見ず。方々神靈を驗て衆咸く悲歎して殷懃に知んことを請ふに、一の沙門あり、宿心淳質、乃感夢を見ること、即ち波羅門に告て曰く、我是慈氏菩薩工人の思ひ聖容を測れざることを恐れ、故に我躬ら來て佛像を圖寫す。右の手を垂るゝは昔如來佛果を證せんとするとき、天魔來て嫉む。地神告至、其一り前に出て佛を助て魔を降す。如來告曰。我忍力を以て彼を降すこと必せり。魔王曰誰か明證を爲す。如來乃ち手を垂て地を指て言く、此に證ありと。是時第二の地神踊り出で證をなす。故に今の像の手昔に倣つて下に垂るゝと、衆その靈監を知て悲歎せざるなし、其後設賞迦王菩提樹を伐り已て此像を毀んと欲すれども、慈顔を瞻て心安忍せず、駕を回して返とす。幸臣に命じて曰く、宜く此佛像を除て大自在天の形を置くべしと、幸臣旨を受け懼て歎して曰く、佛像を毀等は歷劫に殃を招く、王命に違せば身喪族滅せらる。進退如何か行ふべきと。乃ち信心あるものを召て役使せしめ、像の前に横甃壁を壘ね、心冥闇を懸ち、又明燼を甃壁の

前にをき、自在天を書き、切成を報ず、王聞心懼、身を擧てぼうを生じ、肌膚攪裂き、久からざるに便ち没す。幸臣馳返、障壁を毀つ、時經て多日燈猶滅せず。像今在神工かけず。既に奥室に處す、燈を以て乃ち靈相を覩る、夫見ることあるものは自ら悲感を増すと。

胞にて一人も兄弟姉妹でない方はありません。皆さん本とうに同胞であるてふ意となりますれば、兄弟姉妹ですから互に幸福を共にしたいと云ふ意が發るのは當然であります。

私共は本とうに皆さんと同胞と名のり合ひて共に幸福をわから相互にたすけ合つてよきに進みたいと存じます所から斯の會を設けたいとの意が起きたのであります。

人には佛性と申して大ミオヤから受けたる靈性は具有て居れども、それを開發せざれば現はれませぬ。大ミオヤの聖意にかなふ實の孝心なるものはつとめて道を聞かなくては起りません、此につきての必要上毎月一回の集を催して斯道の先輩者を請して法話また講演を聞きて孝といふ信仰の心を養ひ而して目的なる實行を果すやうに致したいのであります。何人にも法を聞かなくては獨り識るものは有りませぬ。道を識らずしていかで行かれまじやう。故に法を聞く集が要するのであります。

何人も法を聞いて眞實に大ミオヤの光を得ますれば、生れ更つた新しき人となられます實に辱けないのは如來の光明であります。斯の光のある所、家に在つては春風駘蕩常はに花にはふ家庭となり、外に出れば相互に同胞的の交情善隣同好のまこと苦樂同情の道義心と現れます。

斯光をうれば轉變極りなき世に處して失意逆境に臨んでも慰安を發見し得意順境に在りても驕らず奢らざる君子の徳は自ら備ります。

諸惡莫作、衆善奉行、は諸佛の通誠、拔苦與樂は菩薩の行願と申しますからは私共がいかにして此を守り之を行はれまじやうと存じますなれども、それでも如來の光明によりて諸惡は自ら遠かり善には進まして下されます。まして大なる孝の心となりますれば萬善自から備はるようになられます。拔苦に於ても四海同胞と信する時兄弟姉妹の疾病災禍に對して争でか傍觀して居られまじやう。然らば自ら拔苦も出來ませう。また自分で如來歡喜光のなかに法喜禪悅の味を嘗めますれば、他人にも自らわけるようになる故に與樂の願もいつしか出來まじやう。

光明孝養會の主意書

註。孝養會は栃木家中渡邊女史發企の會

本會は新義眞言宗の流祖興教大師が御母堂に示し玉へる孝養集に本づきて各自の宗教心を立て、而して眞實の孝道を實行するを目的としますので、光明とは眞理の大みおやの光明によりて眞の孝行の心を發すを云ふのであります。

抑孝に廣狹の二義あります。家に在りて父母に孝順するのみを孝と申すのは狭き意にて一切の道徳を總括して孝と云ふのは廣き意味の孝であります。即ち宇宙の大みおやに歸命信順するの孝にて、國家に在りては君王に忠誠奉仕するも孝、家にありて父母に能く順ひまた夫婦相和し兄弟能く睦み朋友に信義となり、また孤獨を憐み厄難を救ふ如きは廣義の孝と申します。故に梵網經には孝を名けて戒と爲すとは此謂でありますやう。

如來は萬物の大みおやにて在すと云ふことがみなさん能く會解しますれば四海皆同

殊に諸姉よ近來世上逆惡邪見の輩あり。天に神あり佛あるを信せず人に靈魂あるを信せず、國に君王を奉せず政をなみするあり。斯かる徒の口にする處世の精神に害毒を流すこと甚だしいので、また唯現在の肉慾のみを貪り、我慾を恣にし、人生を闇黒の裡に埋没する輩の如きは真理の光を受けざるもの、常とする所であります。

斯の如きは光明なき闇黒の家庭から發生するのですから、家庭の主婦たるもの、爲には一層此の道を聞かして大なる孝行の子を養ふやうにして戴きたいのであります。妾共は大みおやを信じて諸姉君を眞の同胞とおもふて居ります。希くばこの會に加はりて同胞と名のり合ふようにいたして下さいませ。

此世に在るほどは同胞相互に幸福をわかち、相共に手をひきひかれて、よきに道びき而して此の世のつとめを果したる後には、大みおやの光明永へに輝きつゝある處にいたりて永遠の平和と靈福とをうる事になるは、いかに目でたいでしやう。

願くは能く、斯の真理を味うて此の會に加入して玉はれよ。是ひとへに發起者妾共の切なる望であります。

追憶の記

未弟子 角 岡 界 倫

大恩師辨榮上人を偲び奉つて其の在まし、日、教を垂れ玉ひし事などを記さうと思ひます。然し是れは私がかく承つたまでの事で、間違つて居れば私の聴取りの誤りであつて、決して御上人の眞意ではない事をお断りしてをきます。何卒此の點を御諒承下さい確か大正八年の知恩院の夏安居の時であつたと思ひます。私は此の時十幾日間常隨給仕をしてゐました。或る朝勢至堂の前の石の手水バチ水で上人は朝水を終えさせられてから、其の場で私に向つて「此の水は奇麗ですね、此の水なら美味しく飲まれますよ」と仰せられました。何の事かと思つた私は唯「ハイ」と申し上げてゐましたら此の水も流れ、知恩院の山下から加茂川へ流れ込む頃は汚くて飲まれませんよ、丁度吉水の法の流れも法然上人御在世の頃は美しいものでした、それが七

百年後の今日は様々な不純分子が混じてとても、此のまゝでは飲まれなくなつてゐます。然し水はもと、其の源から流れて來たのでありますから、これを濾過すれば又もとの清い水が得られます。此の光明主義は即ち吉水の法流を濾過して其の不純分子を除いて純粹の法然上人の御信仰を世に傳へやうとするのです」と仰せられました。私は自づと頭の下がる心地が致しました。

又或る日私は比叡山に登りました。歸つてから上人のお側に居りますと「比叡山へ登つてどんな感じがしましたかと問はせられましたから、ハイあの大伽藍が必要にせまつて建てられた當時の比叡山の盛大さを偲びまして傳教大師入滅後一千年の今日住むべき人も少く唯形骸丈が淋しく残つてゐるやうに思ひました」と上人は、「さうです比叡山は曾つてあつた肉が腐り、それもいつしかなくなつて唯骸骨だけが残つてゐるのですが此の知恩院も元祖大師御入滅後一千年即ち今から三百年後にはどうなると思ひますか」とお問ひになりましたので「私にはわかりませんがお上人はどうお思ひになりますかとおたづねします」と

「比叡山より都にありて便利でもあるから澤山の人が出入して腐肉の度が一層甚だしく寄生蟲も澤山わいて害毒を世間に流すやうな事が多くなりはいないかと思ふ」と仰せられました。即ち信仰心が滅して淺草の見せもの小屋とかわりがないとの事です。又或る日こんなことを仰せられました。

「現在の宗門も七千ヶ寺からの寺院があつて盛大のやうに見えるが善導元祖兩祖師の眞精神によつて維持されてゐる寺がはたして何ヶ寺あるでせうか。貴僧の寺にしても田畑と伽藍があつて其の収入を目當に貴僧が住職してをられるだけではいかと思ひます。云はゞ形骸丈の道場で佛像は有ても佛心のない寺のみ多く眞實信仰の中心になつてゐる寺院は殆んどないと云つてもよいでせう、宗門の盛大もかゝる形骸の盛大では心細い事です」と

或る日私が上人様に知恩院をお任せして御自由に御處置をお願いしましたら如何

遊されますとおたづねしますと、

「私は祖廟と勢至堂だけでよいと思ひます。此の大伽藍は大垣越徳川家の勢力下にあつてこそ必要であつたでせうが維新以來徳川幕府の倒れた時から、此の大伽藍維持の爲にどれ程多額の不淨財を勸募せねばならぬかと思ふと、一層此の伽藍がなかつたら宗門がどれだけ清く生きられるかわからぬと思ひますと仰せられました。

其の折幾人かの講習生が質問をしにやつて來ましたが來る人も來る人も大同小異の質問をし上人も亦同じやうな解答を遊ばされます。そこでその事を上人に申し上げると上人は

「道でも一本道で迷ふ人はありません、辻へ來て初めに迷ひます。法も亦かくの如く辻のあるものでみんな其所で迷ふのです」と仰られました。

或る日上人の御用をしてゐまして、往昔の事が思ひ出され、元祖法然上人が丁度此處で弟子とお暮し遊ばされた事も、今私が上人にお仕へしてゐるやうな工合であつたらうと思ひましてお上人様私もし三惡道に墮たら今こうしてお仕へしてゐる因縁でお救ひ下さるでせうねとおたづね致しましたら、

「救ひは死後ではありません此の世からであります」と仰せられました、心に愧ぢました。私は今までの習慣で死後の事だけに考へてゐたからであります。

又或る日「祖師のみ教えの中にも追善の事は極めて少く唯佛願力に乗じて救はれる事を明かしてゐなされるのに、現今では追善と云ふ事が佛教の大部分の仕事になつてゐますがこれはどうしたものでございませう」とお話致しますと、

「さうです今の佛教は差し入れ宗教になつてしまひました。既に監獄へ入つたものに差し入れをする事にかゝつてゐます。然し宗教は監獄入りをするやうな人を作らないやうにするのが本務でありますから、どこまでも修養の宗教でなくてははいきません。私は父母追善の爲とて一度も念佛を申した事はありません。強ひて云へば如來の御旨を世の人々に傳へる事が其のまゝ追善だと思ふてをります。私の母親の亡くなつた知

らせを九州の布教さきで受けましたが、私は布教を續けました。さうして數ヶ月の後郷里へ歸りまして、親類や知己を集め私だけの追善のつとめを致しました。此の時も靈前で彌陀經禮拜儀の勤行をし念佛一會の後、

「母も皆様の御親切で此の度如來のみもとへ參りました。どうぞ皆様も私の母のやうに如來に救はれて下さいませう」と云ふ意味のお話をして追善の式を終えました眞實の宗教は自身が救はれてゆく修養の宗教であります。三惡道へ墮したら追善をしもらはうなどと考へてゐるのは正しい信仰ではありません」

とお教え下さいました。

其の折讀經の目的は解義であり解義は如説修行の爲にしております。此の如説修行に功德があるのでありますか、大局から云へば唯讀經だけしてゐる此の習慣も、これあるが爲に經に慕はせて解義する人を作り、如説修行の人を作る大きな助縁にもなつてゐます。之を如來が衆生を思召す大いなるみはたらきと思へば尊い事に思ひます。然しお互ひは此の幼稚な讀經だけに止まらず、進んで如説修行の人になりたいと思ひます」とおさとし下さいました。

明治三十四五年の頃美濃路御教化の折お伴致しました。某寺に往生要集の地獄變相の軸がかけありましたので「お上人様いくら地獄の繪でも顔より大きな舌や身體より大きな釘拔では不釣合ひに思ひますが」と申しますと、

「それは貴僧の繪の見やうがわるい」と仰せられましたので、「いくらどう見ても不釣合ひに見えます」と申し上げますと。

「世の中には體より大きな舌を持つてゐるものはいくらでもあります、例へば商人にしても二三千圓の資本で二三萬圓の資本をかけてゐるに見せかけたり、無信仰な説教師の地獄や極樂を見て來たやうな嘘話や、もつと大きな舌は政治家であります。其の舌の用ひかた一つで國を動かし國と國とを戦はしたりします。さうして此の商人の

かけ引きの爲損害を受けたものは一族子孫まで此商人を恨みます。これが大きな釘抜であり政治家は輿論と云ふ大きな釘抜と其の上幾千年の後まで歴史の上で悪評の釘抜を以つて其の舌を抜かれてゐます。又火もさうです嫁が外出から歸ると姑や小姑の舌からはかれる毒火のため嫁は其の生命を焼かれませう。すべて繪をさう見てゆけば全く此の繪などもよく出来てゐます」と仰せられました。

そこで私が「地獄の火に焼かれても其の火に堪えられる身になれたら地獄の火も恐ろしくはありません」と申し上げますと

「人は一番大切な生命を無常の火に念々時々焼かれてゐますがこれを感じてゐる人は少いのです。然し此の苦を苦と感ぜないものを哀れな人だと思ひます」とお教へ下さいました。

又或る時「書物を讀むには第一に作者の心になつて其の意味を味はねばいけないと仰せられた事もあります。

丁度其の頃「寺院僧侶などが前三後一の最敬禮をして上人に御面會を致し非常に丁重にもてなしなど致しましたので「お上人様あなたは、あの人達がほんとうに御上人様をお敬ひしてゐると思つておいででございますか、あの人達は上人様をかついで猿として一儲けしやうとしてゐる丈ですが、御承知でいらつしやいますか」と申しあげますと、

「私はよく知つてゐます。然しこれによつて如來の御旨が世に弘まると思へば有難い事でありますと仰せられました。

又私が或る時お上人の繪や字を書かゝれる事に兎角の批評をする人がありましたので「さうした事をおやめになつたら如何でございますか」と申しあげますと。

「皆が所望するので書いてはゐるが、何の爲に私のやうなものに書いてくれと云ふのか私にはわかりません。又書いてもらふ人も私が何と思つて書いてゐるかを知りません。だから双方に不可知童子です。此の不可知童子があゝの冠方の通り遊戯三昧を行じ

てゐるのです」と仰せられました。其の時に「では何の爲に全國をお巡りでございませうか」と申しあげますと。

「かうして全國をぐる／＼巡つてをればいつか力強い信仰宗教改かくの同士に遇へるやうに思へるからと仰せられました。

思へば三十餘年前上人が單身全國を布教行脚遊ばされし當時の御心中が推し量られて今の光明會の有様と對比して萬感胸にせまつて參ります……合掌

昭和五年一月廿八日印刷

同 三十日發行

年七冊制は廢止

年拾貳冊 貳圓(郵税共)

編輯兼 山崎 辨成

東京市小石川區諏訪町五五

印刷人 小林七太郎

電話小石川一四九五

發行所

東京市小石川區水道橋二ノ四四

ミオヤのひかり社

振替東京六八五一番